

2021年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 株式会社 ホーブ
 コード番号 1382 URL <https://hob.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 0166-83-3555

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第2四半期の連結業績(2020年7月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第2四半期	1,502	2.7	17	27.6	19	22.0	16	27.7
2020年6月期第2四半期	1,544	14.5	24	5.4	25	10.7	22	16.5

(注) 包括利益 2021年6月期第2四半期 16百万円 (27.3%) 2020年6月期第2四半期 23百万円 (15.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第2四半期	21.77	
2020年6月期第2四半期	30.11	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年6月期第2四半期	1,443	485	33.6	637.11
2020年6月期	970	468	48.3	615.04

(参考) 自己資本 2021年6月期第2四半期 485百万円 2020年6月期 468百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期		0.00		0.00	0.00
2021年6月期		0.00			
2021年6月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,395	5.1	42	74.0	44	65.8	35	21.9	46.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年6月期2Q	762,000 株	2020年6月期	762,000 株
------------	-----------	----------	-----------

期末自己株式数

2021年6月期2Q	213 株	2020年6月期	213 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年6月期2Q	761,787 株	2020年6月期2Q	761,787 株
------------	-----------	------------	-----------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により企業収益や雇用環境が大幅に悪化し、厳しい環境が続きました。未だにその収束時期は見通せておらず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社品種「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）の生食用販売、業務用販売を中心に、いちご果実及びその他青果物の販売に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,502,966千円（前年同期比2.7%減少）、営業利益17,831千円（前年同期比27.6%減少）、経常利益19,782千円（前年同期比22.0%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16,580千円（前年同期比27.7%減少）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(いちご果実・青果事業)

いちご果実・青果事業の主力商品は業務用いちご果実であります。当第2四半期連結累計期間においては、夏秋期は「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）、「コア」（品種登録名「ペチカエバー」）などの自社開発品種と輸入いちごを、その後は国産促成いちご（とちおとめ、紅ほっぺなど）を主に販売しております。

「夏瑞／なつみずき」については、本年度より百貨店等の生食向けギフト販売に取り組み、業務用としても販売エリアおよび販売店舗が拡大するなど、年々認知度が高まり、その価値も向上しております。

夏秋期におきましては、6～7月にかけて曇天、低温が続いたことで、自社品種いちごの生育が停滞気味となり、出荷のピークがずれこむなど、例年になく出荷の流れとなりました。他品種も同様の傾向で、想定していない時期に出荷数量が増加したことに加え、新型コロナウイルス感染症の再拡大による需要減少の影響も重なり、販売に苦戦いたしました。出荷ピークのずれこみにより、10月以降の出荷量の回復も遅れたために、十分な販売数量を確保することができませんでした。

12月のクリスマス期におきましては、7月の長雨とその後の高温による促成いちごの病気の多発や定植時期の遅れが影響し、例年になく生育が遅れることとなりました。このことにより、弊社が主に取扱う業務用サイズの入荷数量が例年になく少ない状況が続き、また、取引先のいちご果実の使用量が減少したことで、販売数量が減少いたしました。また、12月上旬より市場相場価格が高値で推移し、固定価格での販売先に対する利益が大幅に減少したために、売上高、利益ともに前年同期を下回る結果となりました。

その他の青果物におきましては、コンビニエンスストアをはじめとした既存取引先において、フルーツを使用したアイテムの減少に伴い使用量が減少したため、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

業務の効率化を図り、運送費や人件費などの経費削減に努めてまいりましたが、利益の減少分を補うには至りませんでした。

この結果、いちご果実・青果事業の売上高は1,363,080千円（前年同期比3.1%減少）、営業利益は93,459千円（前年同期比16.8%減少）となりました。

(種苗事業)

種苗事業は、自社いちご品種の「ペチカほのか」（商品名「夏瑞／なつみずき」）と「ペチカエバー」（商品名「コア」）を生産販売しております。栽培方法には、秋に苗を定植し翌年春から秋にかけて果実を生産する秋定植と、春に苗を定植し夏から秋にかけて果実を生産する春定植の、概ね2体系の作型があります。当第2四半期連結累計期間におきましては、主に秋定植用苗を販売しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、種苗販売本数が前年同期に比べ増加したことと、いちご品種の共同開発事業に伴う収入があったことで、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、種苗事業の売上高8,835千円（前年同期比82.8%増加）、営業利益は1,479千円（前年同期は営業損失1,857千円）となりました。

(馬鈴薯事業)

馬鈴薯事業は、主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と青果馬鈴薯の仕入販売からなり、主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。当第2四半期連結累計期間におきましては、秋作及び春作種馬鈴薯販売を行っております。

春作の種馬鈴薯の販売において、産地の日照不足などの天候不順の影響で、オリジナル品種、一般品種ともに生産量が大幅に減少いたしました。仕入数量の確保に努めたものの、販売数量は前年同期を下回る結果となりました。しかしながら、採算性を重視した販売に注力し、利益は改善することができました。

この結果、馬鈴薯事業の売上高は85,763千円（前年同期比6.9%減少）、営業利益は4,879千円（前年同期は営業損失1,913千円）となりました。

(運送事業)

運送事業は、株式会社エス・ロジスティクスが行っております。関東圏を中心とした事業展開で、当社の商品配送を中核としつつ、一般荷主からの配送業務受託も行っております。当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により一部配送の休止はありましたが、一般荷主からの配送を自社配送に切り替えるなど効率的な運行に注力し、また経費削減に努めた結果、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、運送事業の売上高は45,286千円（前年同期比11.5%増加）、営業利益は1,702千円（前年同期比3,600.0%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の状況

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較して457,823千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で1,321,185千円となりました。これは現金及び預金、売掛金、たな卸資産が増加したことが主因であります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末と比較して14,749千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で122,003千円となりました。これは有形固定資産が増加したことが主因であります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較して463,191千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で831,807千円となりました。これは買掛金が増加したことが主因であります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末と比較して7,436千円減少し、当第2四半期連結会計期間末で126,037千円となりました。これは長期借入金が減少したことが主因であります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して16,817千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で485,344千円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の48.3%から33.6%となっております。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して151,492千円増加して415,952千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果取得した資金は170,120千円（前年同期は39,220千円の使用）となりました。これは主に、売上債権213,655千円の増加、たな卸資産66,488千円の増加があったものの、仕入債務395,368千円の増加があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は12,124千円（前年同期は17,963千円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出10,030千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は6,504千円（前年同期は143,496千円の取得）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出6,504千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想などにつきましては、当第2四半期決算短信においては修正をしておりますが、経営環境及び最近の業績動向を勘案し、2021年2月4日付にて2020年8月6日に公表した予想数値を修正いたしました。

なお、当該予想数値に関する詳細は、2021年2月4日に開示しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	265,468	416,961
売掛金	543,211	756,866
たな卸資産	46,515	113,003
その他	8,701	34,877
貸倒引当金	△535	△524
流動資産合計	863,362	1,321,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,988	8,557
機械装置及び運搬具(純額)	6,855	7,113
土地	37,400	37,400
その他(純額)	1,529	17,330
有形固定資産合計	54,773	70,402
投資その他の資産		
その他	54,178	51,601
貸倒引当金	△1,697	—
投資その他の資産合計	52,480	51,601
固定資産合計	107,253	122,003
資産合計	970,616	1,443,188
負債の部		
流動負債		
買掛金	98,758	494,127
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	13,008	13,008
未払法人税等	5,856	6,744
その他	50,992	117,927
流動負債合計	368,615	831,807
固定負債		
長期借入金	9,716	3,212
退職給付に係る負債	38,007	37,839
役員退職慰労引当金	82,605	81,835
その他	3,145	3,151
固定負債合計	133,473	126,037
負債合計	502,088	957,844

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	432,250	432,250
利益剰余金	△384,396	△367,815
自己株式	△233	△233
株主資本合計	468,870	485,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△343	△106
その他の包括利益累計額合計	△343	△106
純資産合計	468,527	485,344
負債純資産合計	970,616	1,443,188

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	1,544,235	1,502,966
売上原価	1,209,050	1,202,671
売上総利益	335,185	300,295
販売費及び一般管理費	310,548	282,463
営業利益	24,636	17,831
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	17	17
債務勘定整理益	488	243
助成金収入	—	1,489
その他	292	309
営業外収益合計	802	2,061
営業外費用		
支払利息	63	47
為替差損	12	63
その他	0	—
営業外費用合計	76	110
経常利益	25,362	19,782
特別利益		
固定資産売却益	588	—
特別利益合計	588	—
税金等調整前四半期純利益	25,950	19,782
法人税等	3,012	3,202
四半期純利益	22,938	16,580
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,938	16,580

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	22,938	16,580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	180	236
その他の包括利益合計	180	236
四半期包括利益	23,118	16,817
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,118	16,817
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	25,950	19,782
減価償却費	4,300	2,651
貸倒引当金の増減額(△は減少)	22	△1,708
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△2,884	△168
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,280	△770
受取利息及び受取配当金	△21	△19
支払利息	63	47
有形固定資産売却損益(△は益)	△588	—
売上債権の増減額(△は増加)	△227,002	△213,655
たな卸資産の増減額(△は増加)	△42,705	△66,488
仕入債務の増減額(△は減少)	253,139	395,368
その他	△46,042	37,271
小計	△33,488	172,312
利息及び配当金の受取額	21	19
利息の支払額	△71	△65
法人税等の支払額	△5,681	△2,145
営業活動によるキャッシュ・フロー	△39,220	170,120
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,008	△1,008
定期預金の払戻による収入	1,008	1,008
有形固定資産の取得による支出	△15,146	△10,030
有形固定資産の売却による収入	597	—
貸付金の回収による収入	136	113
敷金及び保証金の差入による支出	△8,796	△7,343
敷金及び保証金の回収による収入	5,244	5,306
その他	2	△169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,963	△12,124
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350,000	300,000
短期借入金の返済による支出	△200,000	△300,000
長期借入金の返済による支出	△6,504	△6,504
財務活動によるキャッシュ・フロー	143,496	△6,504
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	86,312	151,492
現金及び現金同等物の期首残高	292,107	264,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	378,420	415,952

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年7月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	いちご 果実・青果 事業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,406,644	4,832	92,130	40,628	1,544,235	—	1,544,235
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	78,805	78,805	△78,805	—
計	1,406,644	4,832	92,130	119,434	1,623,041	△78,805	1,544,235
セグメント利益又は損 失(△)	112,330	△1,857	△1,913	46	108,606	△83,969	24,636

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△83,969千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年7月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	いちご 果実・青果 事業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,363,080	8,835	85,763	45,286	1,502,966	—	1,502,966
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	64,086	64,086	△64,086	—
計	1,363,080	8,835	85,763	109,373	1,567,053	△64,086	1,502,966
セグメント利益	93,459	1,479	4,879	1,702	101,520	△83,689	17,831

(注) 1. セグメント利益の調整額△83,689千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。